

研究主題：児童生徒の自己指導能力を育む生徒指導
 ー解決志向アプローチの考え方を生かした
 ガイダンスとカウンセリングの機能の充実を通してー



「解決志向アプローチ」とは、「児童生徒の問題や原因に着目するのではなく、児童生徒がもつリソース（よさやがんばり等）を生かし、児童生徒が望む未来イメージに向けて具体的な目標をつくり、新たに解決や未来をつくっていく発想」のことです。「解決志向アプローチ」を生かした関わりの一つとして、児童生徒のリソースをコンプリメントする（褒める、認める等）ことが挙げられます。

第2回研究協議会が実施されました！

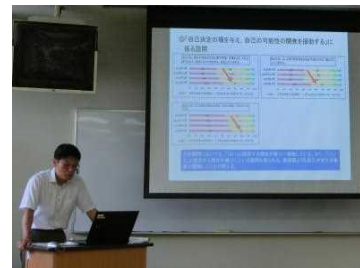
【午前の部】 報告書を基にした研究協力校による実践発表



下妻市立高道祖小学校



茨城町立明光中学校



鉾田市立鉾田北中学校



かすみがうら市立千代田中学校



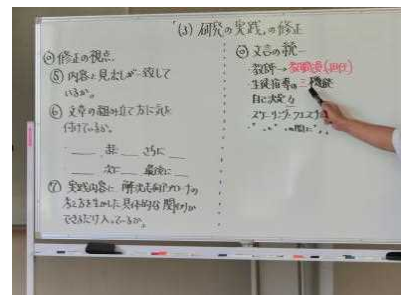
県立太田第二高等学校

8月22日（木）に実施した今回の研究協議会では、5月の研究協議会で発表した内容に、今年度の新たな実践内容を加えて発表しました。五つの研究協力校がそれぞれに作成した報告書からは、先生方の努力の成果と児童生徒のよい変容が、確実に表れていることが分かりました。

【午後の部】 報告書の修正

午前の実践発表を受けて、各校とも報告書の修正を進めました。修正を進める中で、自校の実践内容が、本研究の理論の中心となる「解決志向アプローチの考え方」を生かしたものになっているか、児童生徒の自己指導能力の育成につながる実践になっているかを、改めて確認することができました。

今回の研究協議会を通して、各校とも、自校の実践内容の「強み」を再認識し、研究発表会に向けての見通しと自信をもつことができましたようです。



本研究の成果を、12月26日の「研究発表会」でお伝えしていきます。参加された先生方にとって、今後の教育活動や児童生徒との関わりに生かすことができる発表内容となっております。当日は、本研究の助言者である、目白大学大学院の黒沢幸子教授による講義も予定されています。

先生方のご参加を、心よりお待ちしております。